

選代表民主

細野氏と岡田氏接戦

終盤情勢 決選投票の公算大

民主党代表選（18日投票）を前に、毎日新聞は国会議員の動向に加え、党員・サポーター票と地方議員票の状況を都道府県連幹部らに取材し、終盤情勢を探った。細野豪志元幹事長（43）と岡田克也代表代行（61）が優位に立ち、長妻昭元厚生労働相（54）が迫る展開になっている。ただ、どの候補も1回目の投票では過半数に届かず、細野、岡田両氏による決選投票になる可能性が高い。（5面に関連記事）

調査では、国会議員（132人、264票）への取材に加え、全国の取材網を通じて、地方議員（141）と党員・サポーター票（354票）の地方票の動向も探った。その結果、国会議員票、地方票ともに、「4月の統一地方選に向け党変革を打ち出したい」（関

西地方の県連幹部）などの理由で、新しい顔として期待が高い細野氏が岡田氏をややリードしていた。

国会議員票では、自らのグループや長妻昭久元副防衛相のグループなどを中心に細野氏が50人に迫る勢いだ。岡田氏は野田佳彦前首相のグループや旧民主党系グループなどをまとめ、40人台半ばの支持を固めた。長妻氏は赤松広隆前衆院副議長ら旧社会党系グループ

公認候補予定者 1

地方議員 141票

党員・サポーター 354票

国会議員 264票

18日の臨時党大会で開票

どの候補も過半数に届かず

上位2候補による決選投票

- ・国会議員 132人 (264票)
- ・公認候補予定者 1人 (1票)

1位の候補が過半数を獲得

新代表選出

終盤で情勢が変わる可能性もある。

地方票では、細野氏が地元・静岡や岩手などで浸透しており、岡田氏は地元・三重や和歌山などで高い支持を得ている。長妻氏は地域によっては組織選挙が展開できておらず、国会議員票に比べて得票率が低い傾向だった。

ただ、1回目の投票ではどの候補者も過半数に届かないと見られ、国会議員と国政選挙公認候補予定者（1人の計1票）による決選投票にもつれ込む可能性が高い。1回目では長妻氏に投票した国会議員を、細野、岡田両陣営がどう取り込むかに焦点は移りつつある。

【福岡静哉】